

*やっとなつと秋らしくなりました。各地から紅葉の状況が伝わってきます。もうどこかへ GOTO されましたでしょうか？

//////// I N D E X //////////

- ・ ISO ニュース ……ISO14068(カーボンニュートラリティ)と ISO14021(タイプ II 環境ラベル)
- ・ イベント……………10月29日(木)JLCA「気候行動計画とライフサイクルアセスメント (LCA)」
10月29日(木)J-SUS「ESG情報の開示及び ESG投資動向」
- ・ 編集後記…………… 久しぶりのリアル出張：養豚場見学

■■ ISO ニュース ■■

○ISO14068(カーボンニュートラリティ)と ISO14021(環境ラベル)

イギリスからの提案で、今年(2020年)3月から ISO14048 (カーボンニュートラリティ)を発行する作業が始まっています。企業がカーボンニュートラルを宣言するための方法を定義する国際標準規格を作る作業です。ワーキングドラフトが準備されつつありますが、カーボンオフセットが中心になるようです。再生可能エネルギーなどのクレジットを買えということですね。

私は、今年の1月末のロンドンへの出張で、このワーキンググループの議長とこの新規格での「削減貢献量 (Avoided Emission)」の扱いについて意見交換をして来ました。「削減貢献量 (Avoided Emission)」は、新しく開発した製品が古い製品に置き換わることで削減される温室効果ガス (GHG) の量を計算する方法です。私が座長を務めてきた日本 LCA 学会の研究会で 2015 年にガイドラインを発行しました。経済産業省も 2018 年 3 月にガイドラインを発行し、経団連と一緒に 2018 年 12 月の COP24 でサイドイベントを行うなど世界への普及活動を続けてきました。このサイドイベントでは、フランスとドイツの企業の人々が削減貢献量算定の重要性を講演しています。企業の新製品の GHG 削減への貢献を定量化してイノベーションを推進する方法として多くの企業が実施するようになって来ましたが、旧製品 (ベースライン) との比較にすぎないという批判もあります。

英国は、昨年(2019年)6月の ISO/TC207 の総会で、カーボンニュートラリティのワークショップを開催し、新規格を提案する準備を進めて来ました。この時に、フランスの TC207 の代表と一緒に、削減貢献量を新規格に取り入れる気があるか英国と議論した経緯もあります。

カーボンニュートラリティの新規格を発行するためのワーキンググループは、1回/月のペースでオンライン会合を開催しています。私もワーキンググループの委員 (エキスパート) になっています。10月8日(木)の会合で、やはり削減貢献量を取り入れたいという国が現れました。まだ結論は出ていません。次は、11月5日(木)に会合があります。削減貢献量を入れるように頑張るのが良いか、無理せずに議論の行く末を見守るか、SC7の国内委員会の人達と相談したいと思っています。

驚いたのは、以上の議論をしている最中に、環境ラベルを扱っている TC207/SC3 が、ISO14021 (タイプ II : 自己宣言) の補遺 (部分的な改訂です) を出してきました。この中に、オフセットを中心とするカーボンニュートラリティの計算の仕方とその公開の仕方が書いてあるのです。SC7 で新しく議論を始めたばかりなのに、こちらで決められてしまうと何のために議論をしているのかわかりません。私は、TC207 の国内委員会を通じて、TC207 としての調整が必要なことを申し入れるようお願いしておきました。TC07 はとても大きな組織です。それぞれの SC (サブコミッティ) が隣の SC のことを知らずに活動するようになっていきます。とても危険な状況です。

■■ イベント ■■

・ 10月29日(木)に私 (LCAF 理事長・稲葉) が関係するセミナーが 2 件あります。私が話をするわけではないので、講師の皆さんの日程を調整したらこうなってしまうかもしれません。私はダブルブッキングですがパソコン 2 台で両方をウオッチします。

○セミナー：気候行動計画とライフサイクルアセスメント (LCA)
令和 2 年 10 月 29 日 (木) 13 時 15 分～15 時 25 分 オンラインです。
主催：LCA 日本フォーラム 参加費：無料

参加申込：LCA 日本フォーラムホームページより (<http://lca-forum.org/>) お申し込みください
地方自治体の気候行動計画を LCA の観点で支援しようというセミナーです。

[基調講演]LCA 日本フォーラム会長 (東京大学名誉教授) 山本良一

[招待講演]環境省大臣官房環境計画課長 松田尚之

その他、具体的な実施方法に関する講演があります。

○セミナー：ESG 情報の開示及び ESG 投資動向

2020 年 10 月 29 日 (木)、13 時 30 分～15 時 20 分 オンラインです。

主催：一般社団法人サステナビリティ情報審査協会 参加費：無料

<http://j-sus.org/jsus-seminar202010.html>

ご講演は 2 件、こちらも ESG 投資関係です。

- ・小森博司 (年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF))
- ・水口 剛 (高崎経済大学経済学部教授)

■■ 編 集 後 記 ■■

○10 月 18 日(日)に長野大町の養豚場の見学に行きました。1 月末以来のリアル出張でした。駅前のホテルに宿泊しましたが満室なので驚きました。黒部アルペンルートの紅葉を見る GOTO トラベルなのでしょうか。ホテルも皆がマスクをしていることと、朝食のビュッフェで食べ物を取るときにビニールの手袋を渡されることだけが新型コロナの前と違うだけです。もうほとんど以前と同じようです。

○見学した養豚場は「エコフィード」で豚を育てています。今、「備蓄食料のリサイクル」のお手伝いをしています。先日は、ギンザシックスの地下にある備蓄倉庫を見学しました。周辺に来て被災し帰宅困難になった人を 3000 人・3 日間支える食料と水が中央区の依頼で備蓄されています。災害が無ければそのまま捨てられるのですが、廃棄にもお金がかかります。「エコフィード」という液状飼料にして養豚するというのが廃棄方法の一つの案ですが、全国の自治体に備蓄されている食料の処理はこれだけではまかなえそうにありません。さて、どうしたら良いのでしょうか？ 皆さんのアイデアを教えてください。

私の興味だけで記事を書いています。感想をお送りください。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見,ご感想,本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで (読んで) ください)

〒71-0014 東京都豊島区池袋 2-36-1

インフィニティ池袋 8F52

電子メール：contact@lcaf.or.jp

URL:<https://lcaf.or.jp/>